

第5章 設定 - Windows NT

Windows NT 3.5、3.51、4.0 Server/Workstationに対応しています。

Windows NT環境では、TCP/IPのLPRで出力します。

Windows NT上で共有設定をすることにより、すべてのクライアントから出力できます。

Windows NTとクライアント間のプロトコルは、TCP/IPである必要はありません。

5.1 設定手順概要

Windows NTに「Microsoft TCP/IP印刷」を導入する。

プリントサーバー・カードのIP アドレスを設定する。

Windows NTでプリンタを作成し、共有させる。

5.2 設定手順

1. Windows NT 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをクリックします。
2. 「組み込まれているネットワークソフトウェア」に「Microsoft TCP/IP印刷」が表示されていれば、手順6. に進んで下さい。
3. Windows NTにTCP/IP機能をインストールします。
4. 「ソフトウェアの追加」をクリックして、「TCP/IPプロトコルおよび関連コンポーネント」を選択します。
5. 「接続ユーティリティ」「TCP/IPネットワーク印刷サポート」「FTPサーバーサービス」「簡易TCP/IPサービス」をインストールします。その際に使用端末のIPアドレスおよびサブネットマスクを設定します。
DHCP、WINSを使用する場合はネットワーク管理者と相談下さい。
6. プrintサーバー・カードをネットワークに接続し、電源をOFF/ONします。
7. Windows NTの「コマンド プロンプト」をクリックします。
8. arpコマンドでプリントサーバー・カードのIPアドレスを設定します。

(1) IPアドレス設定

```
C : ¥users¥default> arp -s 192.1.1.41 00-40-8c-10-6a-16 192.1.1.44
```

(a) (b) (c)

(a) プrintサーバー・カードのIPアドレス

(b) プrintサーバー・カードのイーサネットアドレス(本体裏面に記載)

(c) 使用しているWindows NTのIPアドレス

注1: arpコマンドを出す前に、必ずプリントサーバー・カード以外の通信可能なPC等にpingを行なって通信確認を行なって下さい。(Windows NT 3.51の問題で、この操作を行なわないと、arpが発行されません。

注2: arpを発行するWindows NTとプリントサーバー・カードは同じセグメントに接続する必要があります。もし、運用時に違うセグメントに設置する場合は、プリントサーバー・カードと同じセグメントのPCを使用してarpを行なって下さい。

注3: IPアドレスを決定する際、サブネットマスクにご注意下さい。サブネットマスクによってマスクされたIPアドレスを使用されますと、通信ができません。

(2) プrintサーバー・カードの設置されたプリンターの電源をOFF/ONします。

(3) IPアドレス確認

```
C:\Users\default> arp -a
```

(4) IPアドレス通信確認

```
C:\Users\default> ping 192.1.1.41
```

9. 通信ができない場合は、プリンターの電源をOFF/ONした後にもう一度設定を行なって下さい。また、他のWindows NT端末にpingが可能かも確認して下さい。

10. 「プリントマネージャー」アイコンをクリックして、「プリンタの作成」を選択します。

11. プリンター名、説明は任意のものを入力します。

ドライバは、ご使用のプリンター用のものを選択します。印刷先は「その他」をクリックした後、「LPR Port」を選択します。

12. 「LPR Port」で「lprを提供しているホストの名前またはアドレス」にプリントサーバー・カードのIPアドレスを入力します。

「コンピュータのプリンタ名」にPR1と入力します。

注: PR1はプリントサーバー・カードのLPT1を意味します。この名前の詳細については第8章 高度な機能の8.1 論理プリンターを参照して下さい。

13. ネットワークで共有して使用する場合は、「ネットワーク上で共有」のボックスをチェックして下さい。

以上でプリンターの設定は終了しました。

注: Windows NTとプリントサーバー・カードはTCP/IPで接続されますが、Windows NTとクライアント間の通信プロトコルはTCP/IPである必要はありません。

5.3 トラブルシューティング

5.3.1 IPアドレスの設定がうまくいかない場合

IPアドレスがうまく設定できない場合は、以下の方法でも設定ができます。

- (1) 付属のユーティリティソフトウェアNetPilotを使用する。

詳しくは第7章「LANカード設定ユーティリティの使用方法」をご参照下さい。

注：ユーティリティをインストールするWindows NTにNetBEUIプロトコルが導入されている必要があります。

- (2) ftpコマンドを使用する。

プリントサーバー・カードのデフォルトのIPアドレスは192.36.253.80です。TCP/IPの世界では、同じネットワークアドレス部(ここでは、192.36.253.)を持つIPアドレスを有するホスト同士が同一セグメントに存在する場合には、お互いに通信が可能である性質を利用して設定を変更します。

1. ftpコマンド(アプリケーション)を搭載するマシン(PC、UNIXマシン、Macintosh)のIPアドレスを、一時的に、たとえば、192.36.253.70に変更します。最後の70の部分は、0、80、255以外を選択して下さい。
2. ftpコマンドを利用してプリントサーバー・カードにログインし、パラメータ設定ファイルであるconfigファイルをgetします。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready
User (192.36.253.80:root) : root
331 User name ok, need password
Password : pass <パスワードは表示されません>
230 User logged in
ftp> get config
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for config (192, 36, 253, 1, 5, 215)(0 bytes), (mode
ascii).
226 Transfer complete.
local : config remote : config
8404 bytes received in 0.098 seconds(84 Kbytes/s)
ftp> quit
221 Goodbye.
```

3. テキストエディタでconfigファイルを編集し、INT_ADDRパラメータを、本来、設定したいIPアドレスに変更します(IPアドレスの4組の数字は、空白で区切ります)。

INT_ADDRパラメータは、「TCPIP MENU」中にあります。

注：テキストエディタの中には、元の形式とは異なる形式でファイルを保存してしまうものがあります。不適切な形式のconfigファイルをプリントサーバー・カードにputしようとする、putしている間にプリントサーバー・カードのリセットがかかってしまう等の問題が起きます。例えば、Windows NT上のEエディタで、この問題は起きます。Windows NTでは、メモ帳を利用してconfigファイルを編集して下さい。

4. ftpコマンドを利用してプリントサーバー・カードにログインし、configファイルをputします。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80.
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready
User (192.36.253.80 : root) : root
331 User name ok, need password
Password : pass          <パスワードは表示されません>
230 user logged in
ftp> put config CONFIG
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for CONFIG(192, 36, 253, 1, 5, 220)(0 bytes), (mode
ascii).
226 Transfer complete.
local : config remote : CONFIG
8404 bytes sent in 0.027 seconds(3e+02 Kbytes/s)
ftp> quit
```

注：configファイルを小文字でputした場合、プリントサーバー・カードの電源を入れ直すと元の設定に戻ってしまいます。プリントサーバー・カードの電源を入れ直した後も変更を有効にしたい場合は、大文字のCONFIGという名前でputします。(設定を有効にしたい場合は電源を入れ直した後、pingで確認して下さい。)

5. 手順1. でIPアドレスを一時的に変更したマシンの設定を元に戻します。

以上でIPアドレスの設定は完了です。

5.3.2 クライアントよりプリントアウトできない場合

Windows NT3.51で、プリンターの共有をした場合、一般ユーザーが印刷を行なうと、エラーが発生し、印刷できないことがあります。その場合は以下の操作を行なって下さい。

- (1) Windows NTのファイルマネージャを起動する。
- (2) スプールファイルが格納されるディレクトリのEveryoneのアクセス権を読み取り(RX)から変更(RWXD)に変更する。なお、スプールファイルが格納されるディレクトリは初期設定では%SystemRoot%system32¥spool¥PRINTERSです。

第6章 設定 - TCP/IP

TCP/IP環境での基本的な設定は、以下の手順で行います：

1. プリントサーバー・カードのIPアドレスの設定
2. 使用するOS (UNIX、AIX等) の設定

UNIXの設定にはrootの権限が必要です。

プリントサーバー・カードは、ネットワークの構成を自動的に認識する「自動ルータ識別機能」があります。しかし、お使いの環境により、デフォルトルータ(パラメータ DEF_ROUT)、ネットマスク(パラメータ NET_MASK)を手作業で設定する必要がある場合があります。詳しくは、「付録A パラメータリスト」を参照して下さい。

6.1 IPアドレスの設定

プリントサーバー・カードのIPアドレスの設定は、以下の手順で行います。

1. ホストテーブルの編集
2. IPアドレスの送信

DNS (Domain Name Service) のようなネームサービスを利用している場合は、そのネームサービスが参照するホストテーブルにプリントサーバー・カードのIPアドレス、ホスト名を追加します。ネームサービスを利用するクライアントマシンのローカルなホストテーブルが参照されるかどうかは、使用するOSの環境設定によります。

IPアドレスの送信には、arpコマンドを利用する方法と、ftpコマンドを利用する方法があります。使用する環境にUNIXマシン、Windows NTマシンが存在する場合は、arpコマンドを利用する方法をお奨めします。何かの理由でarpコマンドが利用できない場合に、ftpコマンドを利用する方法を選択して下さい。

6.1.1 ホストテーブルの編集

NIS (Network Information Service、旧称YP (Yellow Pages)) を利用している場合は、マスタサーバのホストテーブルを編集します。通常、UNIXのホストテーブルは、/etc/hostsファイルです。Windows NTの場合は、C:\winnt\system32\drivers\etc\HOSTSファイルです(CドライブにWindows NTをインストールした時)。また、DOS/Windows PC用のTCP/IPソフトウェアのホストテーブルは、そのインストールディレクトリ下のHOSTSという名前のファイルであることが多いようです。以下のようにIPアドレス、ホスト名を追加します。

```
192.36.253.96      salesdept
```

このIPアドレスは、単なる例です。実際は、使用するネットワークのアドレス体系に沿う、適切なIPアドレスを設定して下さい。プリントサーバー・カードのデフォルトのIPアドレス(192.36.253.80)、また、この例のIPアドレスを使用した場合は、arpコマンドを発行した際に「Network is unreachable」のようなエラーになるはずですが。

NISを利用している場合は、マスタサーバのホストテーブルを編集後、以下のコマンドを実行します(%は、コマンドプロンプトです)。

```
% cd /var/yp
% make
```

注意：上記のコマンドは、使用するOSにより異なる場合があります。OS付属のマニュアルを参照して下さい。

6.1.2 IPアドレスの送信

IPアドレスの設定は、同一セグメント上で行う必要があります。最終的には別のセグメントにプリンターを配置する場合でも、IPアドレスの設定のために一時的に同一セグメントに接続し、設定を変更した後に移動することも可能です。

6.1.2.1 arpコマンドを利用する方法(UNIX、AIXの場合)

以下のようなコマンドを実行し、ARPテーブルにエントリを追加します。

```
% arp -s ホスト名 物理アドレス temp (UNIXの場合)
```

物理アドレスは、プリントサーバー・カードの背面に記されている、コロンで区切られた数字の組です(イーサネット用の場合はイーサネットアドレス、トークンリング用の場合はノードアドレス)。

実際には、

```
% arp -s salesdept 00:A0:7A:00:AF:15 temp (UNIX)
```

のようにします。

注意：arpコマンドの仕様は、使用するOSにより異なります。BSD系UNIXの中には、指定するホスト名と物理アドレスの順番が逆の場合があります。また、IBM AIXでは、「-s」オプションの後に、「ether」オプション(イーサネット用)、あるいは、「802.5」オプション(トークンリング用)が必要です。OS付属のマニュアルを参照して下さい。

注意：Windows NT付属のarp.exeの問題で、上記のようにarpコマンドを実行した時、エラーになる場合があります。その場合は、他のTCP/IPホストにpingをかけた後に、改めてarpコマンドを実行して下さい。他にTCP/IPホストがない場合は、ftpコマンドを利用する方法で、IPアドレスを設定して下さい。

ここで、一度、プリンターの電源を入れ直した後、以下のようなコマンドを実行し、IPアドレスを送信して下さい。

```
% ping ホスト名
```

実際には、

```
% ping salesdept
```

のようにします。

pingコマンドを実行すると、「salesdept is alive」というようなメッセージが表示されるはずですが、これで、IPアドレスの設定が完了しました。

注意：pingコマンドの仕様は、使用するOSにより異なります。

6.1.2.2 ftpコマンドを利用する方法

プリントサーバー・カードのデフォルトのIPアドレスは192.36.253.80です。TCP/IPの世界では、同じネットワークアドレス部(ここでは、192.36.253.)を持つようなホストが同一セグメントに存在する場合は、素直にftpコマンドによる通信が可能です。

1. ftpコマンドを搭載するマシン(UNIX、Windows NT、DOS/Windows PC、Macintosh等)のIPアドレスを、一時的に192.36.253.90に変更します。最後の90の部分は、0、80、255以外であれば自由に選択できます。
2. ftpコマンドを利用してプリントサーバー・カードにログインし、configファイルを取得します。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80.
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready.
Name (192.36.253.80:root): root
331 User name ok, need password
Password: pass

230 User logged in
ftp> get config
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for config (192,36,253,1,5,215) (0 bytes),
(mode ascii).
226 Transfer complete.
local: config remote: config
8404 bytes received in 0.098 seconds (84 Kbytes/s)
ftp> quit
221 Goodbye.
```


3. テキストエディタでconfigファイルを編集し、パラメータINT_ADDRを、本来設定したいIPアドレスに変更します(IPアドレスの4組の数字は、空白で区切ります)。

注意: テキストエディタの中にも元とは異なる形式でファイルを保存してしまうものがあります。そのような形式のconfigファイルをプリントサーバー・カードにputしようとする、putしている間にプリントサーバー・カードのリセットがかかってしまう等の問題が起きます。例えばこの問題はWindows NT上のEエディタで起きますので、Windows NTではメモ帳を利用してconfigファイルを編集して下さい。

4. ftpコマンドを利用してプリントサーバー・カードにログインし、configファイルをputし、プリンターをリセットします。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80.
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready.
Name (192.36.253.80:root): root
331 User name ok, need password
Password: pass
230 User logged in
ftp> put config CONFIG
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for CONFIG(192,36,253,1,5,220) (0 bytes), ((mode
ascii)
226 Transfer complete.
local: config remote: CONFIG
8404 bytes sent in 0.027 seconds (3e+02 Kbytes/s)
ftp> get hardreset
200 PORT command successful.
421 Print Server hard reset, closing connection.
ftp> quit
```

注意: configファイルを小文字でputした場合、パラメータの変更は、次にプリンターをリセットするまで有効です。プリンターのリセット後も変更を有効にしたい場合は、大文字のCONFIGという名前です。また、新しいIPアドレスは、プリンターのリセット後に有効になります。

5. 1でIPアドレスを一時的に変更したマシンを元に戻します。

これで、IPアドレスが設定できました。以下のように、新しいアドレスに対して、pingコマンドを実行してみてください。

```
% ping salesdept
```

pingコマンドを実行すると、「salesdept is alive」というようなメッセージが表示されるはずです。これで、IPアドレスの設定が完了しました。

注意: pingコマンドの仕様は、使用するOSにより異なります。

6.2 AIXの設定

IBM AIX環境では次の3つの印刷方法があります。

LPD(Line Printer Daemon):

ホスト間で印刷ジョブを転送するプロトコル。設定が簡単でプリントサーバーカードを遠隔印刷装置としてSMIT中に導入するだけで済みます。ただし、表紙ページやフィルタ、複数コピーのようなスプーラ機能はサポートされません。

FTP(File Transfer Protocol):

ホスト間でファイルを転送するプロトコル。ほとんどすべてのシステムでこの方法を利用した設定が可能です。

PROS:

独自のプロトコルで、LPDやFTPに比べて導入方法はやや難しいですが、印刷状態ログや通信ログをとることが可能です。

(プリンターの詳細なエラー状態や、実際の用紙排出終了までは記録出来ません)

6.2.1 LPDを利用する方法

1a 次のコマンドを実行し、SMITを立ち上げます。

```
% smit mkrque
```

1 b 以下の一連の作業を行います(以下では、待ち行列と装置は同じ名前「salesdeptrq」を利用することにします)。

1. 「追加する待ち行列の名前」:
待ち行列名を入力します。
2. 「遠隔ジョブの宛先ホスト」:
プリントサーバー・カードのホスト名を指定します。
3. 「待ち行列状況出力用のSHORT FORM FILTERがあるパス名」:
/usr/lpd/bsdshortを指定します。
4. 「待ち行列状況出力用のLONG FORM FILTERがあるパス名」:
/usr/lpd/bsdlongを指定します。

5. 「遠隔印刷装置の待ち行列の名前」：使用するプリントサーバー・カードの論理プリンター名を指定します。デフォルトでは、論理プリンター1(名前はpr1)がLPT1ポートに対応します。
6. 「追加する装置の名前」：装置名を入力します。
7. 改行キーを押します。

以上で遠隔待ち行列がインストールされ、SMITが終了します。

- 1c プリンターをテストするため、以下のコマンドを実行します。

```
% qprt -Psalesdeptrq ファイル名
```

追加したいプリンターのエン트리毎に上記の手順1を繰り返して下さい。その際は、作成するエン트리毎に異なる待ち行列名、装置名を指定して下さい。

6.2.2 FTPを利用する方法

- 1a プrintサーバー・カードに関連するソフトウェアを置くディレクトリを作成し、そこにcdします。(下記は/user/lpdのディレクトリの下にapdirという名のディレクトリを作成した例です)

```
% mkdir /usr/lpd/apdir
% cd /usr/lpd/apdir
```

- 1b ftpコマンドでPrintサーバー・カードに入り、aixディレクトリからftp_piobeファイルをgetします。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready.
Name (salesdept:root): root
331 User name ok, need password
Password: pass
230 User logged in
ftp> cd aix
250 CWD command successful.
ftp> get ftp_piobe
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for ftp_piobe (192,36,253,1,4,107) (0 bytes), (mode
ascii).
226 Transfer complete.
```

```
local: ftp_piobe remote: ftp_piobe
1516 bytes received in 0.2 seconds (7.5 Kbytes/s)
ftp> quit
221 Goodbye.
```

2a ftp_piobeを編集します。

18行目: `internet_address=192.36.253.80`

プリントサーバー・カードのホスト名を指定します。

23行目: `logical_printer=pr1`

使用するプリントサーバー・カードの論理プリンター名を指定します。デフォルトでは、論理プリンター1(名前はpr1)がLPT1ポートに対応します。

27行目: `ftp_path=/usr/ucb/ftp`

ftpコマンドのフルパス名を指定します。コマンドの置き場所は、whichコマンドで分かるはずです。

2b 次のコマンドを実行し、FTPバックエンド・プログラムを実行可能にします。

```
% chmod +x ftp_piobe
```

2c 次のコマンドを実行し、待ち行列(プリントキュー)に対する装置を作成します(待ち行列と装置は異なる名前を利用できますが、以下では同じ名前「salesdeptq」を利用することにします)。

```
% ln /dev/null /dev/salesdeptq
```

2d 次のコマンドを実行し、SMITを立ち上げます。

```
% smit mkvirprt
```

2e 以下の一連の作業を行います。

1. 「Printer or plotter attached to host」オプションを選択します。
2. 「Enter device name」の問い合わせに対し、装置名を入力します。

3. プリンターのタイプを選択します。適切なプリンタータイプが分からない場合は、AIXのマニュアルをお調べ下さい。

4. 「Header pages」, 「Trailer pages」 オプションを指定します。

5. 待ち行列名を入力します。

6. この待ち行列をデフォルト待ち行列にするかどうかを指定します。

以上で仮想プリンターがインストールされ、SMITが終了します。

2f 次のコマンドを実行し、再びSMITを立ち上げます。

```
% smit chquedev
```

2g 以下の一連の作業を行います。

1. 待ち行列と装置を選択します。

2. オプション画面が表示されます。「バックエンド・プログラムのパス名」に対し、2bで実行可能にしたFTPバックエンド・プログラムのフルパス名を指定します。

3. 改行キーを押します。

以上でバックエンド・プログラムが設定され、SMITが終了します。

プリンターをテストするため、以下のコマンドを実行します。

```
% qprt -Psalesdeptq ファイル
```

追加したいプリンターのエン트리毎に上記の手順2を繰り返して下さい。その際は、作成するエン트리毎に異なる待ち行列名、装置名、バックエンド・プログラム(FTPバックエンド・プログラム)名、ログファイル名、適切なプリンタータイプを指定して下さい。

6.2.3 PROSを利用する方法

- 1a プリントサーバー・カードに関連するソフトウェアを置くディレクトリを作成し、そこにcdします。（下記は/user/lpdのディレクトリの下にapdirという名のディレクトリを作成した例です）

```
% mkdir /usr/lpd/apdir
% cd /usr/lpd/apdir
```

- 1b ftpコマンドでプリントサーバー・カードに入り、aixディレクトリからmakefile、pros_piobe、prosaix.cファイルをgetします。

```
% ftp 192.36.253.80
Connected to 192.36.253.80.
220 Print Server FTP Printer Server V1.00 Jan 22 1997 ready.
Name (salesdept:root): root
331 User name ok, need password
Password: pass
230 User logged in
ftp> cd aix
250 CWD command successful.
ftp> get makefile
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for makefile (192,36,253,1,4,99) (0 bytes), (mode
ascii).
226 Transfer complete.
local: makefile remote: makefile
247 bytes received in 0.22 seconds (1.1 Kbytes/s)
ftp> get pros_piobe
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for pros_piobe (192,36,253,1,4,101) (0 bytes),
(mode ascii).
226 Transfer complete.
local: pros_piobe remote: pros_piobe
1922 bytes received in 0.22 seconds (8.5 Kbytes/s)
ftp> get prosaix.c
200 PORT command successful.
150 Opening data connection for prosaix.c
(192,36,253,1,4,102) (0 bytes), (mode ascii).
226 Transfer complete.
local: prosaix.c remote: prosaix.c
7383 bytes received in 0.72 seconds (10 Kbytes/s)
ftp> quit
221 Goodbye.
```

- 1c makeします。

```
% make
```

2a pros_piobeを編集します。

18行目: `internet_address=192.36.253.80`

プリントサーバー・カードのホスト名を指定します。

23行目: `logical_printer=pr1`

使用するプリントサーバー・カードの論理プリンター名を指定します。デフォルトでは、論理プリンター1(名前はpr1)がLPT1ポートに対応します。

27行目: `pros_path=/usr/lpd/apdir/prosaix`

1cで作成したprosaixのフルパス名を指定します。

32行目: `hostname=some host`

現在、設定を行っているUNIXホスト名を指定します。

41行目: `logfile=/tmp/salesdeptlog`

ログファイルのフルパス名を指定します。ログをファイルに記録する代わりにユーザーにメールで通知したい場合は、行頭に#を置いてコメントにします。

たいていのUNIXシステムでは、/tmpディレクトリの下のファイルはシステム立ち上がり時に消去されてしまいます。

46行目: `backfile=/dev/null`

2b 次のコマンドを実行し、PROSバックエンド・プログラムを実行可能にします。

```
% chmod +x pros_piobe
```

2c pros_piobeでログファイルを利用する指定を行なった場合は、そのファイルを作成し、アクセス権を変更します。

```
% touch /tmp/salesdeptlog
% chmod 666 /tmp/salesdeptlog
```

2d 次のコマンドを実行し、待ち行列(プリントキュー)に対する装置を作成します (待ち行列と装置は異なる名前を利用できますが、以下では同じ名前「salesdeptq」を利用することにします)。

```
% ln /dev/null /dev/salesdeptq
```

2e 次のコマンドを実行し、SMITを立ち上げます。

```
% smit mkvirprt
```

2f 以下の一連の作業を行います。

1. 「Printer or plotter attached to host」オプションを選択します。
2. 「Enter device name」の問い合わせに対し、装置名を入力します。
3. プリンターのタイプを選択します。適切なプリンタータイプが分からない場合は、AIXのマニュアルをお調べ下さい。
4. 「Header pages」, 「Trailer pages」オプションを指定します。
5. 待ち行列名を入力します。
6. この待ち行列をデフォルト待ち行列にするかどうかを指定します。

以上で仮想プリンターがインストールされ、SMITが終了します。

2g 次のコマンドを実行し、再びSMITを立ち上げます。

```
% smit chqueuedev
```

2h 以下の一連の作業を行います。

1. 待ち行列と装置を選択します。
2. オプション画面が表示されます。「バックエンド・プログラムのパス名」に対し、2bで実行可能にしたPROSバックエンド・プログラムのフルパス名を指定します。

3. 改行キーを押します。

以上でバックエンド・プログラムが設定され、SMITが終了します。

2i プリンターをテストするため、以下のコマンドを実行します。

```
% qprt -Psalesdeptq ファイル
```

追加したいプリンターのエン트리毎に上記の手順2を繰り返して下さい。その際は、作成するエン트리毎に異なる待ち行列名、装置名、バックエンド・プログラム(PROSバックエンド・プログラム)名、ログファイル名、適切なプリンタータイプを指定して下さい。

6.3 DOS/Windows用TCP/IPの設定

考え方はWindows NTの場合と同様です。リモートのUNIXとして振る舞っているプリントサーバー・カードのリモートプリンター(pr1~pr8)に出力するような設定を行って下さい。